
おとこずきといわれます。

赤坂おゆ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おとこずきといわれます。

【Nコード】

N5199Y

【作者名】

赤坂おゆ

【あらすじ】

年頃になっても男子をさっぱり意識しない、女子中学生の話。

普通に一緒に帰るし、人目なんか気にしない。

それでも、「あいつ、男好きだよな」なんて言われるとちょっと傷つく。

個性豊かすぎる部員の多い剣道部に入った主人公は、ほかの人よりちょっと遅めに成長する。

ひまつぶしにもなりません、ちらっとでも見てももらえると嬉しい

です。

5月　～　M a i . . . あれ、M a y だっけ？～

男子と話すのは苦手じゃない。

むしろ変にキヤピキヤピしてる女子と関わるより、楽しいぐらいにだけど　　だけど、仲が良いのと、両想いがどつどつのは、全然別の話でしょう。

剣道部の新入生は、11人だった。

世話好きなあたしにとっては、嬉しいなんてもんじゃない。出された入部届けを抱いて眠りたいぐらいだった。

二年は、4人。

三年は、1人。

存続が危ぶまれていたうちの部は、なんとか生き残った。うん、なんとか。

五時間目のあと、教室に後輩が訪ねてきた。

リクという頭の、背の低い男子。

まだ入学して半年も経たないというのに、紺のブレザーには給食らしき汚れがたくさんついている。

「わざわざ教室までご苦労さま。で、どうした」

「あのですね、明音先輩、^{あかね}竹刀忘れました。助けて下さい」

剣道屋が商売道具忘れてどうする。なんもできないでしょーが一瞬で聞く気をなくした。

「もし良かったら、一本貸してくれたりしませんか」

そう言っつてリクが歯を見せて笑う。さらに、上目遣いまで。

あんたはキヤバ嬢か。

「部長にはもう言ったの？　っていうか、同期に借りればいい話じゃない？」

「両方ともノー。プライドってやつがあるんスよ」

「で、あたしになら良いと？」

長くなるので中略。

結局、あたしが折れた。

「では、放課後にまた来ますから」

「わかった。あのさ　　部活なら仕方ないけど、校内で下の名

前で呼ぶの、勘弁して」

「あ、はいー」

あつという間に、リクの姿は消えた。

「仲、いいんだねえ」

これ、近くの席のレイカ。漢字で書くと玲香　　どーでもいいか。

「ほんつと男と話すの好きだねえ」

「はい？　別に男女関係なしに、話すのは好きだけど」

「ふうん？　でもさあ、後輩に下の名前って、どうよ？」

「まあ、それは　　」

それは、仕方ない。

剣道部のちよつとした伝統のひとつなんだから。

『部員同士はあだ名か下の名前で呼び合うべし』とか

『防具には敬意をもって、様付けするべし』とか、

考えたの誰よ？　ってなのがたくさんある。

全部が全部、今も引き継がれてるわけじゃないけど。

「あの子に限ったことじゃないよ。明音、この前も飯塚と帰ってたらしいじゃん」

「そう、だけど」

飯塚、っていうのは、同じ剣道部の二年。たった二人の同期のうち
の一人だ。

「なんで？ よりによつて飯塚？」

「なんでつて、部活の後ほかに一緒に帰れる人いなかったから」

「でもさ 他人ひとに見られてたらどうしよう、とか考えないの。」

さっきの子みたいにい顔してるんならまだしも、わざわざイノシシなんかとはでしょう」「

イノシシっていう言い方も、それこそないでしょう。確かに小太りだけ。

「とにかくね、あんま男子とイチャイチャしないほうがいいって。

陰口叩かれるぞー」

レイカはそう締めくくると、席へ戻っていった。

イチャイチャ、か。

はたから見れば、そのとおりかもしれない。

小学校の頃は、こういった光景はクラス中にあった。

性別なんて関係なしに、一緒に遊んだり、一緒に帰ったり、普通にしていた。

あたしとかだけじゃなく、みんなも。

そっか、もう違つんだよね。

みんな、成長しただけなんだよね。

年頃に男女を意識するな、ってほうが無理なんだよね。

やっぱり、あたしのほうがおかしんだ。

未だに男子を「友達」としか見ることができない、あたしが。

5月　く　M a i . . . あれ、M a y だっけ？　（後書き）

すみません、あちこち文が変わったことと思います。
さらに、全然おもしろくない。。。

最後まで読んで頂き、ありがとうございました。
よかったら、続編もおねがいます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5199y/>

おとこずきといわれます。

2011年12月11日15時51分発行